らいふプラス

専門学校と連携 職への意識養う

大阪府、中高生に仕事体験学習

専門学校が持つ職業教育のノウハウを、中高生の職業観の育成に役立てる試みが大阪府で始まった。府と府教委、専門学校などが連携して、中高生が専門学校で無料で職業体験ができるプログラムなどを展開する。子供向け職業体験型テーマパーク「キッザニア」の中高生版。普段の学校の授業では触れられない実践的な講義に、生徒たちの目も輝く。

「まもなく着陸いたします。座席ベルトをしっかりお締めください」。航空機内が再現された教室内に、客室乗務員になりきった女子高校生のアナウンスが響く。元客室乗務員の講師、藤本三咲子さんから「もう少し口角を上げると声が聞きやすくなるよ」との助言を受け、少し照れ笑いを浮かべて言い直した。

8月、大阪市西区の「ホスピタリティツーリズム専門学校大阪」で開かれた職業体験授業。約50人の高校生が、ウエディングプランナーやホテルマンなどのコースに分かれて職業体験をした。チャペルが再現された別の教室では、現役ウエディングプランナーの女性講師が、結婚式の司会を実演していた。参加した大阪市内の女子府立高校生(17)は「仕事がリアルに感じられる」と話す。

この日のイベントは、府と府専修学校各種学校連合会（大専各）などが手を組んだ事業「OSAKAジョブミュージアム」のプログラム。専門学校を「仕事のテーマパーク」に見立て、興味のある職業を無料で体験できる。今年4月に始まった。

プロジェクトには府内の専門学校45校が参加し、自動車整備工や調理師、理学療法士など数十種類の体験コースを用意。8月までに計約3千人が体験したという。

ノウハウを活用、実践的に

○　○　○

同市の「日本分析化学専門学校」では8月上旬、府内の中学1～3年生約30人が「分析化学者」になった。実験用ゴーグルに白衣姿で、食品にビタミンCが含まれていることを確認する実験や指紋を検出する作業をこなす。中学1年の男子生徒（13）は「学校の理科の実験よりもおもしろい」と目を輝かせた。

職業教育の重要性は国も指摘。文部科学省中央教育審議会の特別部会は今年5月の経過報告で「進路、就業意識のない進学者が増加している」などと指摘。「体験的な学習活動を活用すべきだ」と提言した。

全国でも神奈川県の「仕事のまなび場」、長野県の「ワークワーク仕事まなび塾」など同様の取り組みが広がるが、対象は高校生。大阪府のように中学生にも門戸を開いた例は少数派だ。

○　○　○

大阪府は「英数国理社だけではない複線型の多様な教育ルートを目指す」として、専門学校と積極的に連携してきた。実践的な知識が豊富な講師をそろえ、指導にもたけた専門学校の特徴を生かした、様々な取り組みを行っている。

2009年に計10校をモデル校に選定し、半年かけて職業観を育成する「職業アセスメント・プログラム」を実施。5月から高校生に職業適性診断テストを受験させ、8月に職業人との交流イベントを開催した。10～11月には専門学校で職業体験学習を行った。

今年に入ってからは、府と大専各、商工会議所などで「大阪進路支援ネットワーク」を結成。同ネットワークが主体となってOSAKAジョブミュージアムを行うほか、府立高校の校長でつくる団体と大専各の交流なども企画している。

府私学・大学課の担当者は「専門学校が蓄積した職業教育のノウハウを大阪全体で活用させてほしい」。大専各の重里徳太副会長も「大学に進む学生も仕事を意識することは大切。就職率の改善に一役買いたい」と意気込む。

ある専門学校関係者は「職業を意識することで普段の学習にも身が入る。最終的にどんな職業に就きたいか決まっていれば、学力に合った学校選びが中心の進路指導のあり方も変わるはずだ」と指摘する。

専門学校の教室で、客室乗務員の職業体験をする高校生（大阪市西区のホスピタリティツーリズム専門学校大阪）

1人で学校に通い始めた小学生から免許が取れる高校生まで、交通安全は常に子供にとって身近な問題です。子供の命を守るため、何を教えるか。「我が家の交通教育、どうする？」をテーマに400字程度でご意見を募集します。電話番号を明記し「学ぶ」係（FAX03・6256・2771、

学びのふるさと

「勇気を持って挑戦する時が来る」

指揮者・佐渡裕さんからのアドバイス

ピアニスト　辻井 伸行さん

つじい・のぶゆき　東京都生まれ。幼少期からピアノを始め、7歳で全日本盲学生音楽コンクール・ピアノの部第1位。上野学園大4年に在学。9月にはソロアルバム「優覧会の絵」を発売。21歳。

～～～